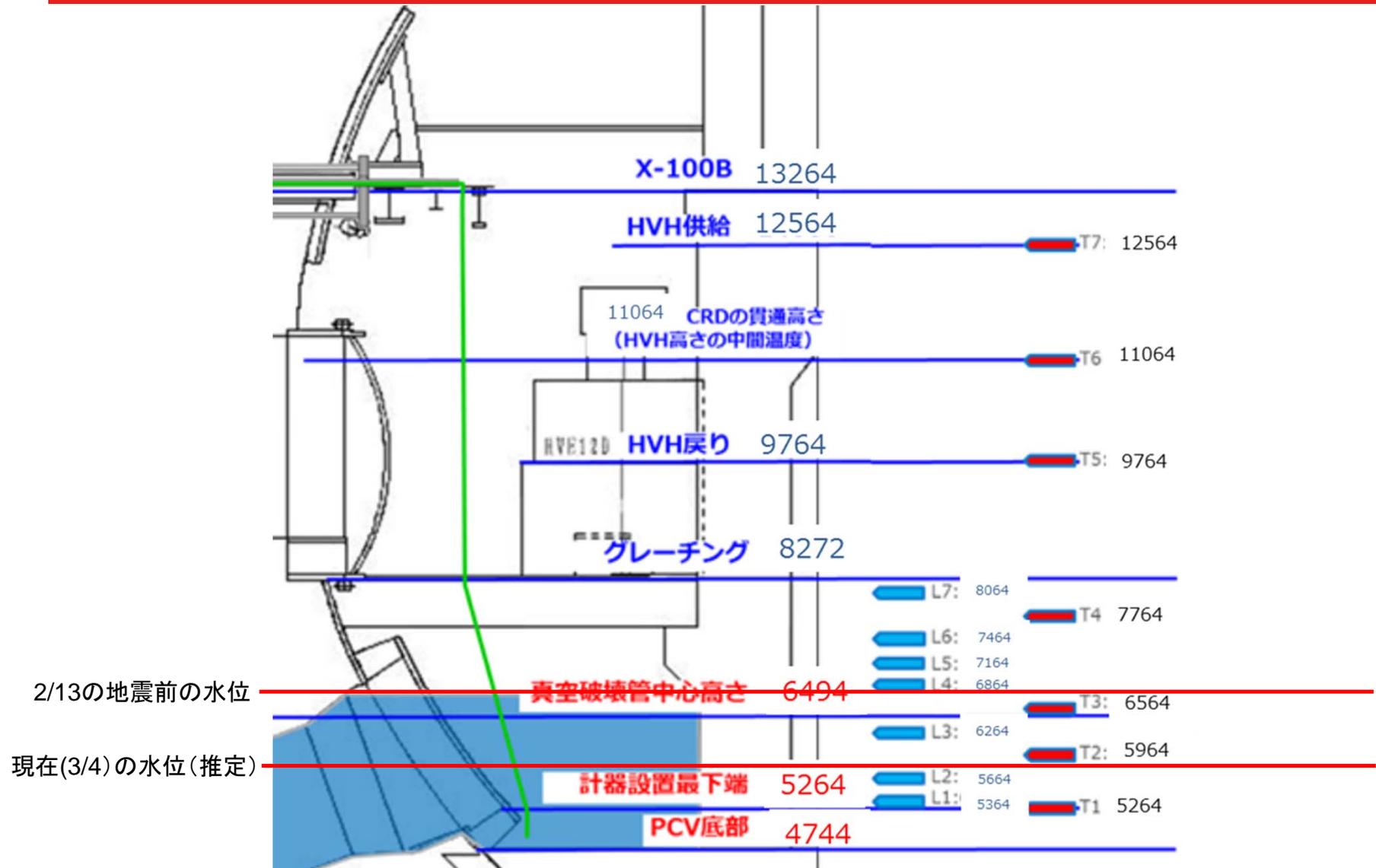


福島第一原子力発電所 1号機および3号機 原子炉格納容器における水位低下について（続報）

< 参 考 資 料 >
2 0 2 1 年 3 月 4 日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

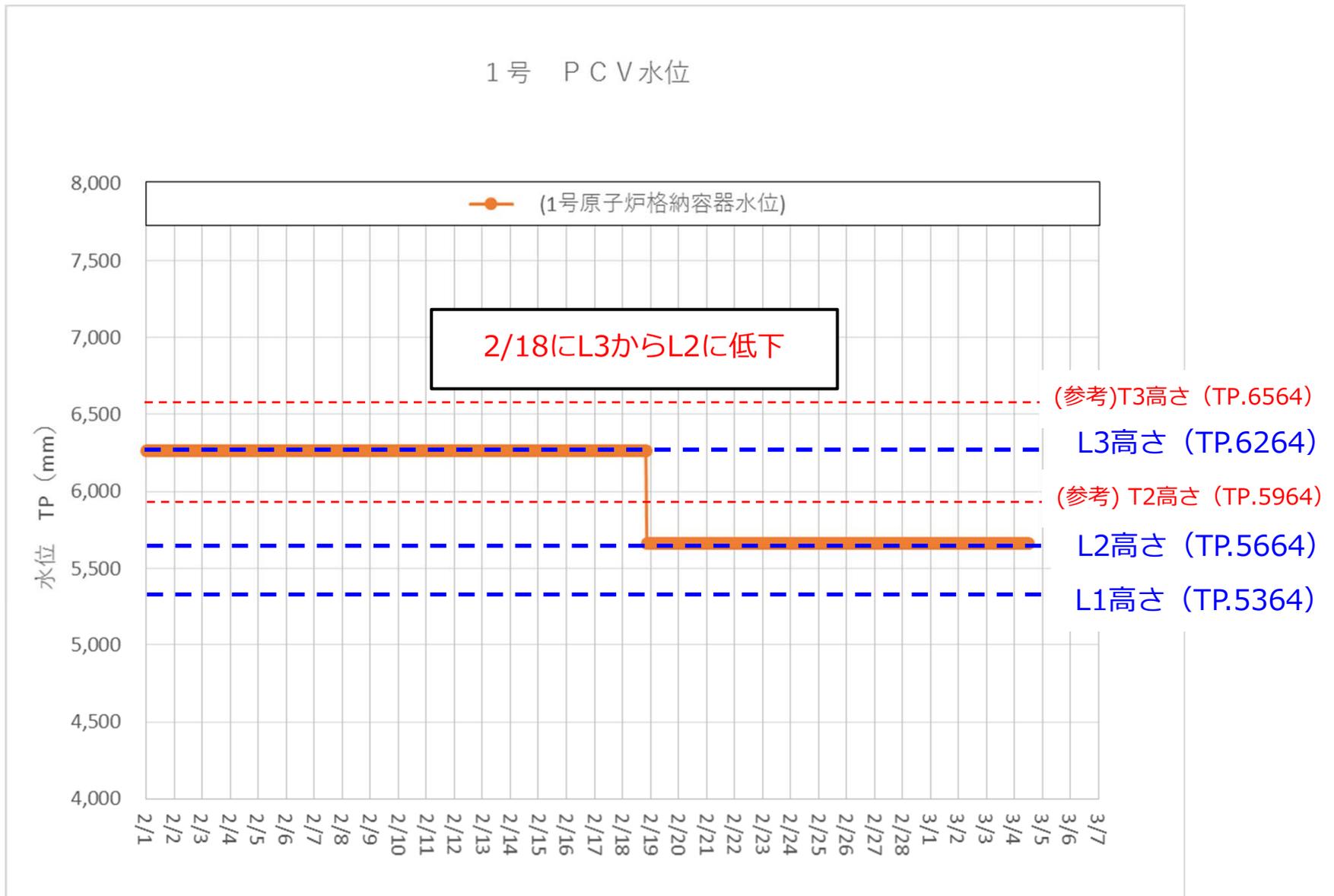
- 2月19日にお知らせした1号機および3号機原子炉格納容器（PCV）水位が低下傾向にある件について、その後の状況をお知らせいたします。
- 現在の状況は下記のとおりです。[3月4日午前11時00分現在]
1号機：現状の水位は、温度計T2（T.P.+5,964mm）と水位計L2（T.P.+5,664mm）の設置位置の間。
（原子炉格納容器底部はT.P.+4,744mm）
3号機：現状の水位は、水位計L3（T.P.+10,064mm）と水位計L2（T.P.+9,264mm）の設置位置の間。
（原子炉格納容器底部はT.P.+4,044mm）
※原子炉格納容器内水位(圧力抑制室圧力の水頭圧換算による計算値)
：T.P.+9,533mm （2月19日17時時点の計算値：T.P.+9,623mm）
引き続き、傾向を監視してまいります。
なお、原子炉圧力容器底部温度、格納容器ガス管理システムの放射能および敷地境界モニタリングポスト等に有意な変動は確認されておりません。
- 1号機PCVには、毎時約3.0m³を継続的に注水するとともに、引き続き水位監視を継続しています。燃料デブリの冷却は維持された状態で、温度やダスト放出量といったパラメータに有意な上昇はありません。一方で、水位が最下部の水位計L1を下回ると、PCV内の水位を水位計で監視できない状態となること、および、水位計が接点式で、水位がL2を下回りさらに低下傾向を継続すると、次はいつL1を下回るかわからなくなることから、水位を安定的に監視するため、L2を下回った時点で注水量増加することとしております。
- 今後も同様の水位低下が継続すると仮定すると、PCV水位が水位計L2の高さまで低下するのは、最短で3月5日前後頃と想定しています。その時点で、注水量を増加（現在約3.0m³/hを約4.0m³/hに増加）させる予定です。
- また3号機については、計算値ではPCV水位は概ね安定した状況にあると考えておりますが、引き続き、傾向を監視してまいります。

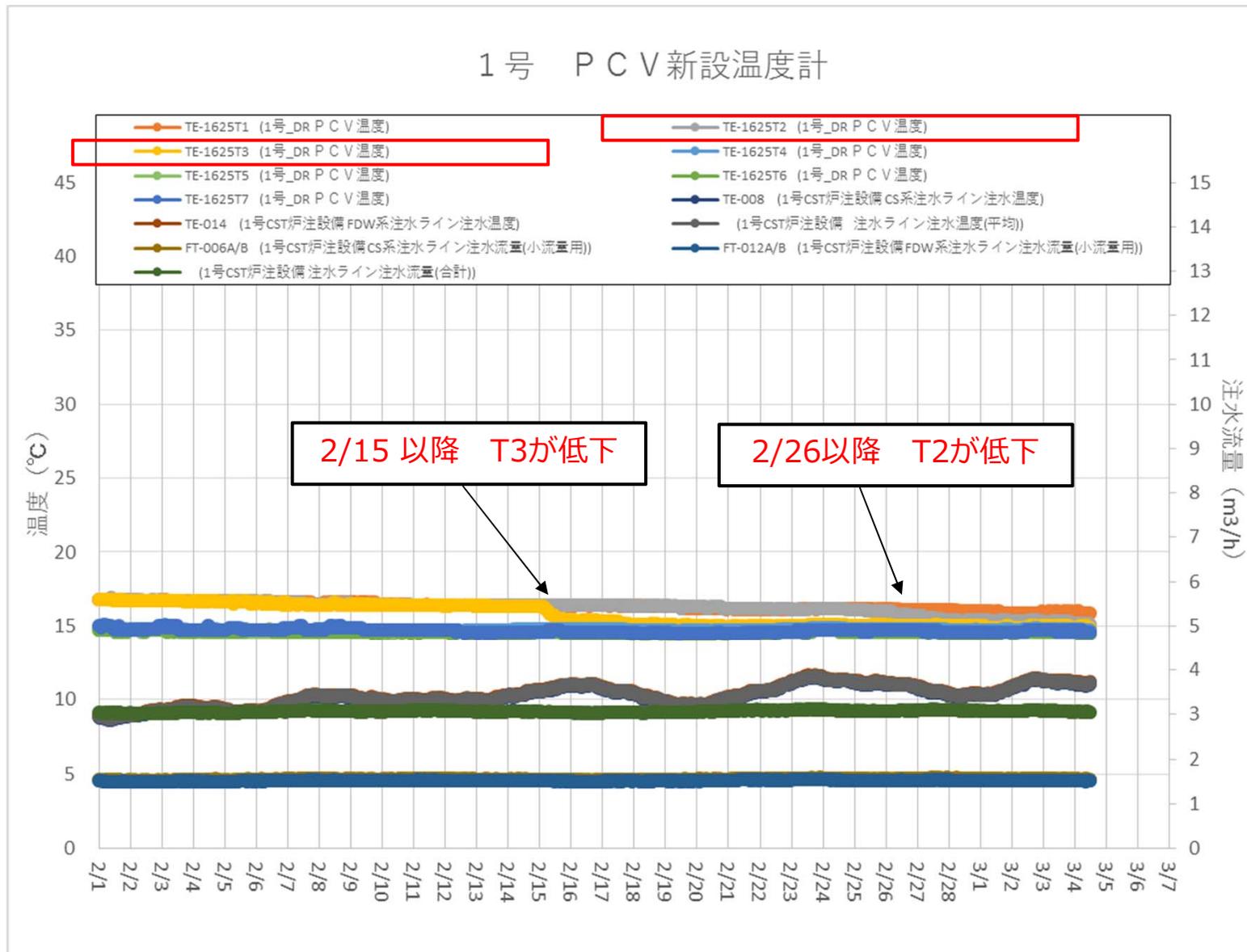
1号機 原子炉格納容器温度計・水位計の設置高さ



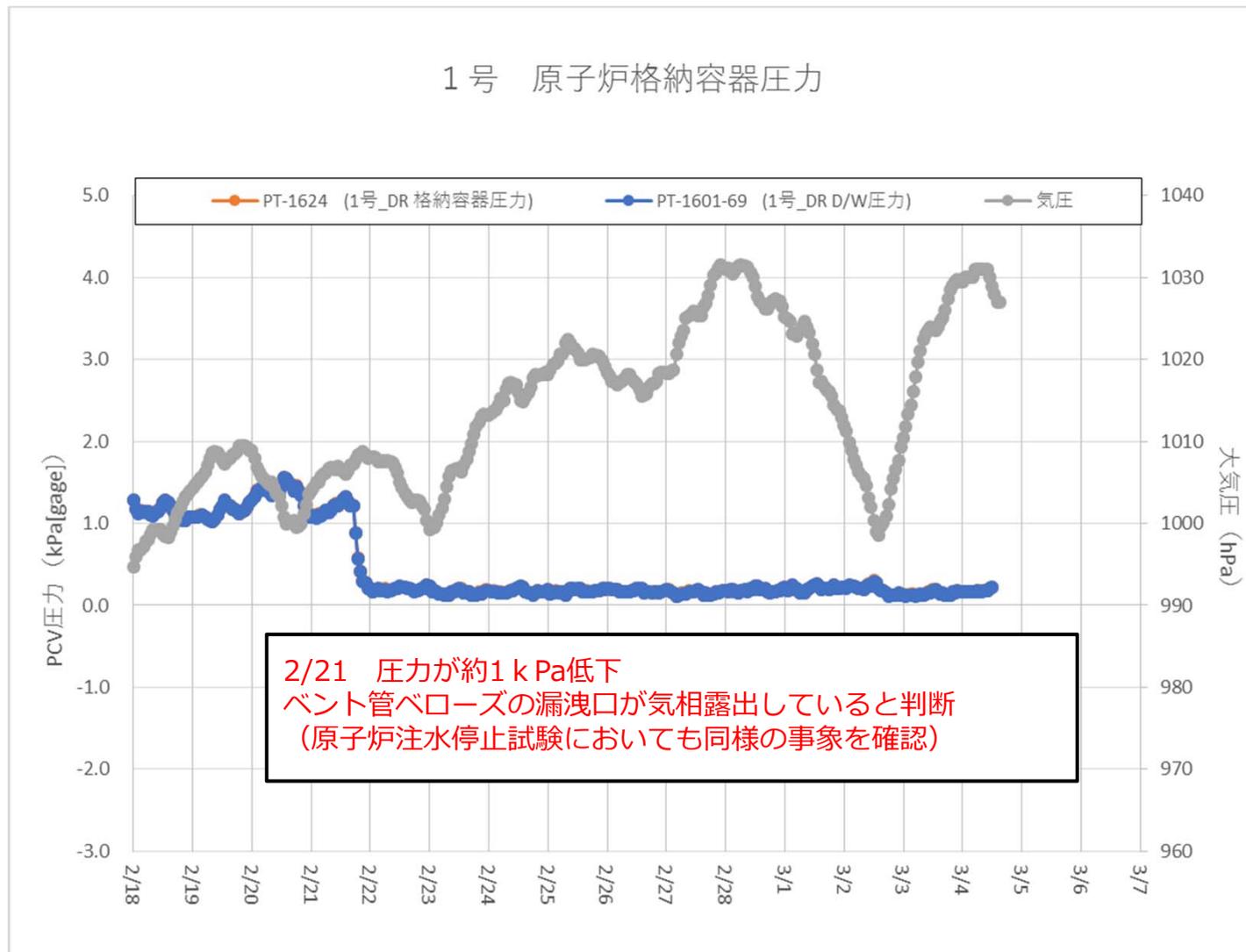
設置高さの記載は標高で記載 (T.P.)

1号機 原子炉格納容器水位





1号機 原子炉格納容器圧力



※ 3号機はPCV水位低下の事象発生前後を通して、概ね一定（0.4kPa程度）で推移。

■ 判断基準と対応

- PCV水位が水位計 L 2 高さを下回った時点で注水量を + 1 m³/h 増加させる

■ 目的

- 水位計による水位監視を確保するため、接点の最下端である L 1 を P C V 水位が下回らないよう、念のため L 2 を下回った段階で注水量を増加することを目的とする。

■ 手順

- PCV水位が L 2 高さを下回った時点で、速やかに注水量増加操作を開始する。

< 1号機 >

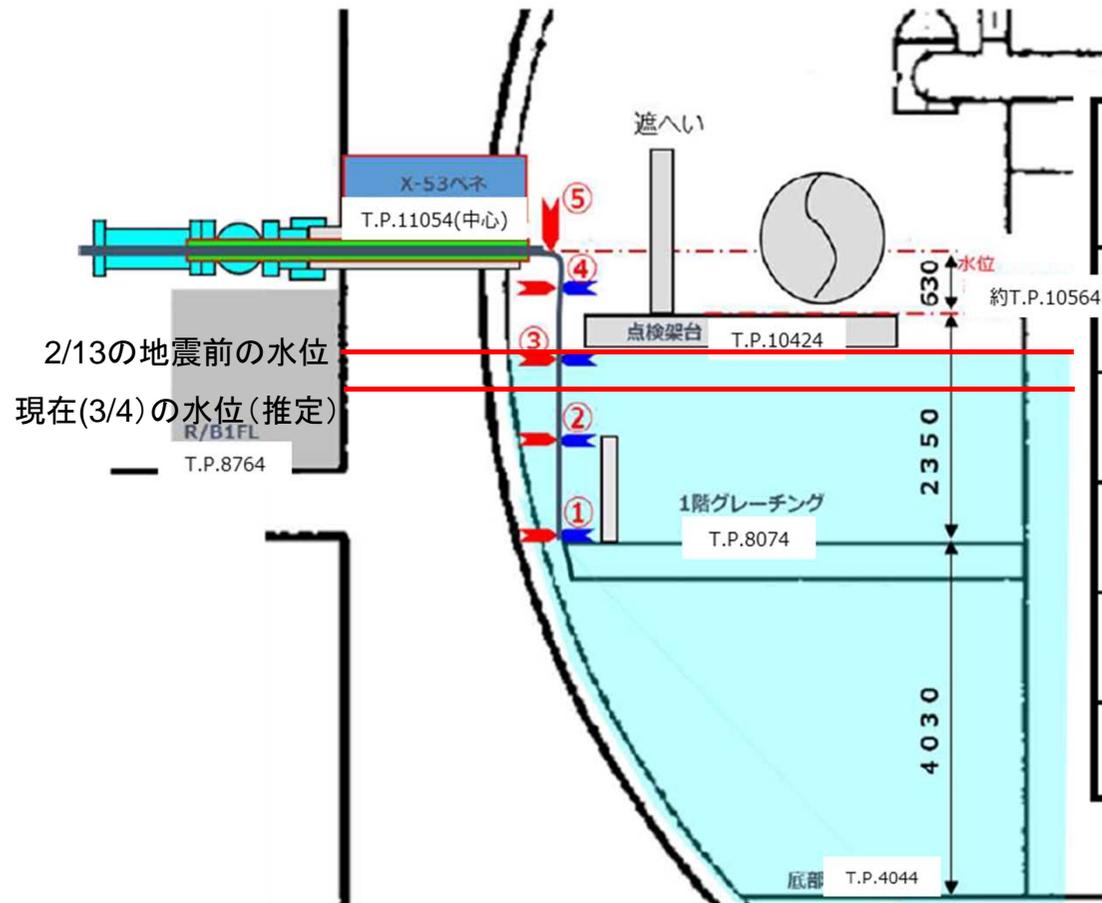
給水系	1. 5 m ³ /h	⇒	2. 5 m ³ /h (+ 1 m ³ /h)
炉心スプレイ系	1. 5 m ³ /h	⇒	1. 5 m ³ /h (変更なし)

(参考)

< 3号機 >

給水系	1. 5 m ³ /h	⇒	1. 5 m ³ /h (変更なし)
炉心スプレイ系	1. 5 m ³ /h	⇒	2. 5 m ³ /h (+ 1 m ³ /h)

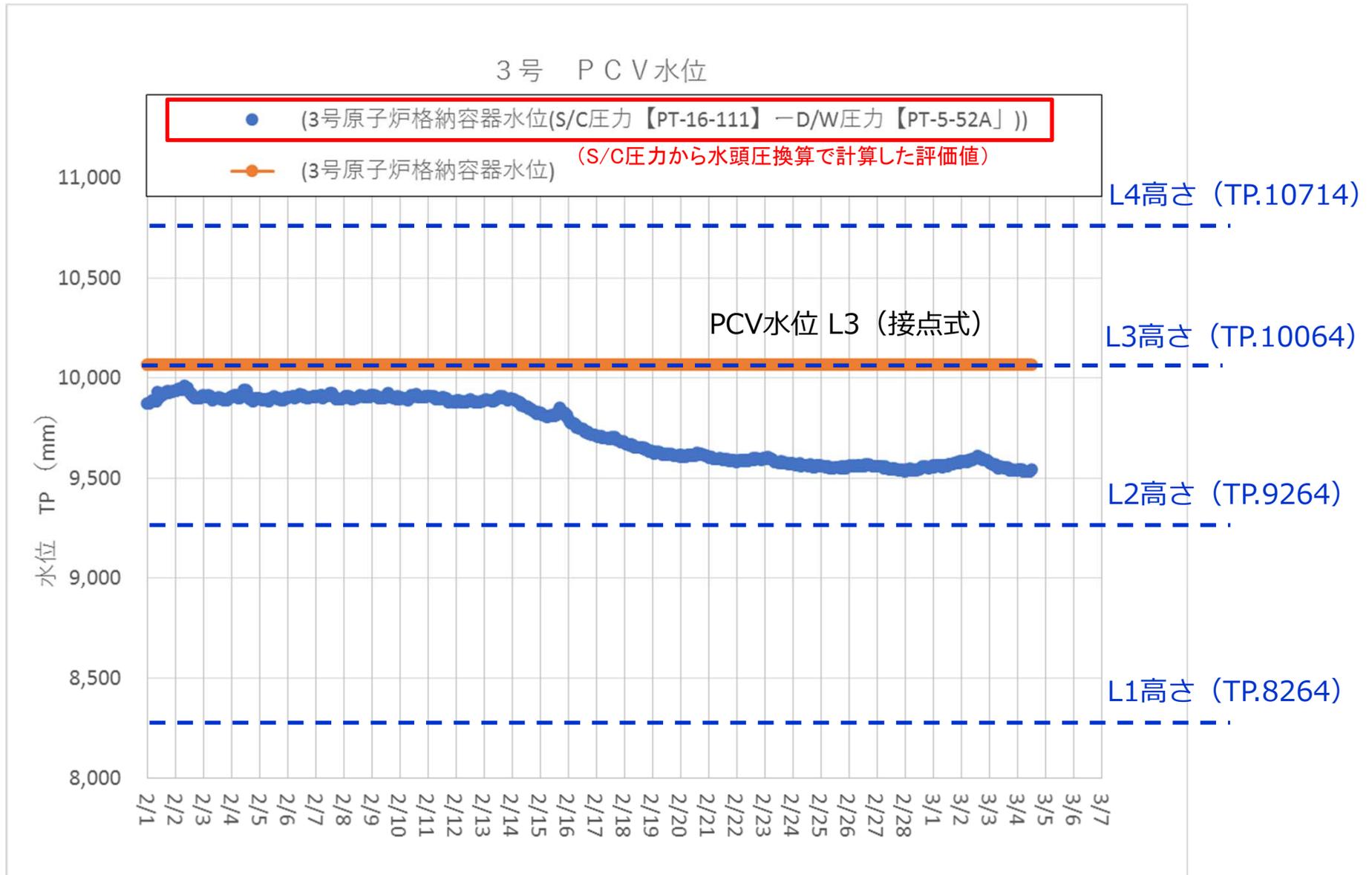
3号機 原子炉格納容器温度計・水位計の設置高さ



計器位置	設置計器		設置位置 (T.P)
	温度計	水位計	
⑤	TE-16-005	—	約10964
④	TE-16-004	LS-16-004	約10714
③	TE-16-003	LS-16-003	約10064
②	TE-16-002	LS-16-002	約9264
①	TE-16-001	LS-16-001	約8264

高さはT.Pで記載

3号機 原子炉格納容器水位



3号 PCV新設温度計

